

恒例

## 夏の終わりの納涼祭

第12回地域交流会



8月31日、夏休み最後の日となった土曜日に毎年恒例の納涼祭が開かれました。

12回目を迎えた今回も、大勢の来賓や近隣のみな様と楽しい時間を過ごすことができました。毎年参加していただいている王子桜中学のブラスバンド演奏や和太鼓での盆踊り、可愛いフラダンスなど、利用者様にも笑顔が絶えない見応えのあるイベントとなりました。来年もまたよろしくお願致します。



## 花と光に包まれた旅立ち

「トミおばあは、百歳。百年も生きてきたので、体のあちこちがギンギンと痛い。寒くなるとトミおばあは ますますぐったりする。でももうすぐ ハルヨドリがやってくる。ハルヨドリは やせていて太陽のにおい。肩に大きなリュック。澄んだ瞳。ハルヨドリがどこまでもとべるのは このリュックの中に ハルヨドリの花の種がぎゅっり つまんでいるからだ。ハルヨドリは年二回、遠い国からトミおばあがいる 小さな島へ とんでくる。トミおばあは ハルヨドリをまっている。何日も 何日も 何日も——。そして ついに オリーブ色の風といっしょに 空からハルヨドリがはいってきた。トミおばあの部屋の中に ハルヨドリのリュックの中の ハルヨの種が ザザア—とこぼれた。次のしゅんかん 種が いっせいに芽を出し 見るまに スクスクのびて つぼみがふくらみトミおばあの部屋いっぱい 春の色の オレンジとピンクの花がさいた。ハルヨドリが つばさを広げてトミおばあに だきつく。『あいたかったよ トミおばあ』 『おかえり ずっと まっていたよ』。(山田たまき著『光に包まれて』より抜粋・再録) ※ハルヨドリとはタイで28年間、ハンセン病の支援活動にかかわり続けている看護師・阿部春代さん。トミおばあは18歳から84年間、宮古島のハンセン病療養所で療養生活を続け、この物語の2年後の2018年の夏、いつも待っていたハルヨドリの翼ののって旅立った。享年102歳。



## ケア知識 26 排泄介助がはじまる前に……

家族の介護がはじまると、必ず悩みの種となるのが排泄の問題。大人の排泄物には家族とはいえ抵抗があるでしょうし、戸惑うことも多いはず。ましてや介助を受ける高齢者は、これまで自分だけで行ってきた排泄行為を人に見られ、助けてもらうのですから、介助者以上にデリケートな問題になります。これだけは注意したいポイントを挙げてみます。

- 尊厳を傷つけない 紙オムツなど自分から付けたいと思う高齢者は一人もいないはず。介助者は羞恥心を逆なでするような言動は厳禁です。また高齢者も抵抗があるでしょうが、自分でできること、できないことを見極めることも必要かも。
- 排泄のパターンをつかむ 失敗しないために排泄のパターンをつかみ早めにトイレに行くことが重要です。介助者もタイミングを見計らい誘導することが可能になります。
- 水分補給はこまめに 失敗をおそれ、水分を控えることは厳禁です。脱水症状や便秘にもつながり健康を害します。
- 情報を集め、知識を身につける 介護製品の進歩はめざましいものがあります。紙オムツも必要の度合いによって、さまざまなタイプがあり、快適に使用できます。排泄介助の方法も知らないのと知っているのでは大違いです。情報をこまめに収集することが大切かもしれません。

心がけていることを尋ねると「ご利用者、ご家族に寄り添った誠実な対応」との答えが全員から返ってきた。3人の女性が介護の道を選んだ動機は、大切な人の介護経験や終末期を見守ったことだという。誠実でありたい

「書類仕事などでストレスを感じたときは、ユニットに行ってご利用者と話をして癒やしてもらおうですよ」と語る峯田さんに、全員が大きいうなずいた。現場が好きだからこそ務まるのが、相談室の仕事なのかもしれない。

特養利用者のご家族にとって、施設の中でいちばん慣れ親しんでいる部署は、一階にある相談室かもしれない。相談室の仕事は、ご利用者やご家族との相談業務、施設との調整や手続き、地域や役所・医療機関との連携など、介護福祉サービスにおけるありとあらゆる「相談・連携・調整」。まさに、特養とご家族をつなぐフロントスタッフといっている。現在、飛鳥晴山苑の相談室では男性白一点(?)の石川さん、ケアマネの佐藤さんと峯田さん、そして5月からの新任となった遠藤さんの4人のスタッフが働いている。もちろん4人共、介護の現場を経験し、スキルや知識を備えたプロフェッショナルだ。



写真右から、石川さん 遠藤さん 峯田さん 佐藤さん

相談室◎石川進之さん 峯田奈穂子さん 佐藤弘恵さん 遠藤有希子さん



特養・便り



暑い夏も終わり季節は秋になりました。今年も特養では納涼祭に花火大会、ユニットでカキ氷を作って食べたりと大いに夏を満喫しました。さて、今回は施設の廊下をご紹介します。

普段何気なく通る廊下ですが、各フロアによって壁の飾り付けや共有スペース、図書コーナーにアクアリウムなど、利用者様に楽しんでいただけるよう様々な工夫がされています。廊下を散歩される際に絵画や写真を眺めたり、図書コーナーで本を読まれたり、泳ぐ魚に心を癒されたり、自由な時間を過ごされています。ご家族様と他のフロアを回られる方も多く、とても楽しんでいただけているようです。まだご覧になっていない方、ぜひ行ってみてください。

ショートステイ・便り



9月16日の敬老の日に、特養・ショートステイ合同での敬老会をあすかホールで行いました。今回ショートステイの利用者様では、喜寿と米寿を迎えられる利用者様3名に賞状と記念品が贈られました。お三方ともお話し好きの元気な利用者様で、賞状をととても喜んで頂きました。

また、ショートステイでは利用者様と一緒に様々な工作レクを行ってありますが、今年は初めて提灯を作ってみました！ 風船で提灯の形を作り、和紙を貼り付けてからみな様思いおもしろい絵を描きフロアに飾っています。今後も利用者様に楽しんで頂けるようなレクレーションを企画し実施していきます。



デイサービス・便り



9月16・17・18日の3日間、デイサービスでは毎年恒例の敬老会を開催しました。賀寿者のご利用者様は30名、その内100歳を迎えられる百寿の方が2名いらっしゃいます。お二方共、笑顔が大変素敵でやさしいおばあちゃまです。佐長施設長からお祝いの言葉と記念状や花束のプレゼント。照れくさそうにされる方や涙ぐまれる方、様ざまですが、みな様本当に喜ばれて、職員一同うれしい瞬間でした。昼食にはお祝い膳が提供され、こちらも大変好評でした。美味しい食事に楽しい催しと、どなたも満面の笑顔で、敬老会を堪能された様子でした。



ケアパートナー・便り

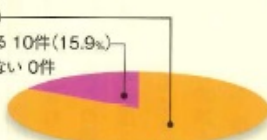


ケアパートナーあすかではご利用者のみな様にご協力いただき、「満足度調査」を実施いたしました。ここに結果をご報告いたします。

令和元年8月実施  
97名中 63名回答(回答率64.9%)  
回答者/ご本人21名・ご家族52名・その他0名

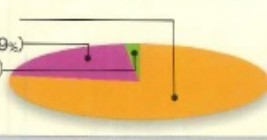
安心してケアマネジャーに相談することができますか？

- 1.できる 53件(84.1%)
- 2.どちらかといえばできる 10件(15.9%)
- 3.どちらかといえばできない 0件
- 4.できない 0件



総合的に見て、居宅介護支援事業所「ケアパートナーあすか(ケアマネジャー)」の対応についてはいかがですか？

- 1.満足 49件(77.4%)
- 2.ほぼ満足 13件(20.9%)
- 3.やや不満 1件(1.7%)
- 4.不満 0件



★アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。これからも課題に取り組みながら、信頼されるケアマネジャーとして成長していきたいと思っております。

ケアパートナーあすか スタッフ一同

訪問看護・便り



8月23・24日、国立京都国際会館で行われた「第21回日本褥瘡学会学術集会」に参加してきました。朝早く新幹線に乗り、京都駅から私鉄に乗り換え、会場へ。毎年、たくさんの参加者で混みます。ランチョンセミナーを聞き、企業展示会場を見て回りました。ランチョンセミナーのテーマは「褥瘡、そしてスキンケア(皮膚裂傷)の最前線2019」。現在、褥瘡は減少し、これからは予防の時代とのこと。外側からのスキンケアと内側からのケアが大切との話でした。

学会全体の方向性も予防、特に栄養面がクローズアップされており、在宅での管理栄養士との連携も増えそうです。

来年は神戸！ また盛り上がりたいと思います。看護師/久鳥敏子・石崎朋美

高齢者あんしんセンター・便り



8月31日の当苑納涼祭にはたくさんのご来場ありがとうございました。当センターではボランティア団体「カフェあすかの会」のみなさんとバザーを行い、おかげさまで人盛況でした。このバザーの収入は、認知症の方やご家族を支援する「オレンジカフェきたい〜な カフェあすか」の運営に充てさせていただきます。また、同じ日におこなわれた近隣の西ヶ原商栄会夜店にも、魚釣りゲームにて参加、こちらもたくさんのお子さんに楽しんでもらえ、高齢者あんしんセンターのPR活動ができました。



…… 飛鳥晴山苑高齢者あんしんセンター ……  
☎03-3940-9175 (月~土 午前9時~午後6時)

